

開会挨拶

農林水産省技術総括審議官 **西郷 正道 氏**

本日は、お忙しい中、「生物多様性連携シンポジウム～自然資本でつなげる・つながる～生物多様性保全の経済的連携に向けて」に、多数の皆様にご参加いただきましてありがとうございます。

今日のシンポジウムは長い名前でございますが、農山村地域における生物多様性保全活動の価値評価および企業やNPO等との連携による経済効果の分析手法開発に関する研究という内容です。名前が長いと、まだ概念が詰まってないのではないかという見方があるかもしれませんが、農林水産政策研究所の研究成果を多くの方々に共有していただくということが



目的でございます。また、保全活動を行ううえで、いろんな方々、多様な主体を、つなげる・つながるといったことでございますが、最近、連携推進機関という言葉も出ているようでございます。そういったパートナーシップの問題にスポットをあてて開催するというにいたしました。

わが国の農林水産業は、食料や、木材等をつくっているわけでございますけれども、それ自体が生物多様性の恵沢と申しますか、それをいただいて生業にさせていただいています。ただ、それを長く適切に続けることによって、生物多様性の基盤にもなっているという部分があるということでございます。それが農村漁村やひいては都市の住民の方々にもさまざまな生態的、あるいは経済的な効果をもたらしているということは頭で考えると分かるのですが、きちんと示すことはなかなか簡単ではない。

その一方で、少子高齢化が言われています。農村から人がどんどんいなくなってしまって久しくなっております。農林水産業においては、昔から生物多様性を保全しようと思って営まれたわけではないのですが、自然に対して毎年決まった時期に、決まった働きかけをしていくといったような活動を行ってきたわけですが、しかし、この活動が生産活動とともに低下してしまい、生物多様性を適切に維持、増進するという面からすると若干弱まってきているのではないかと危惧されているところでございます。

このような中で、実際に働いている農林漁業の関係者と、企業の方々、NPOの方々がお互いの視点で、農林水産業における生物多様性保全の取り組みになんらかの価値がある、それを見出して、その価値をいわゆる一般の方々、消費者の方々、あるいは社会へアピールをしていくということが、だいぶん出てきたのではないかなと思っております。

話は変わりますが、今年は来月はじめからメキシコのカンクンというところで生物多様性条約の第13回の締約国会議、COP13が開かれることになっております。生物多様性の主流化がテーマで、いろんな角度から議論されます。だいたい、生物多様性を主流化しようというのがテーマになるわけですから、よほどマイナーなのかということもあるわけですが、主流化しようという中で、今年は農林水産業というセクターが大きなものとして取り上げられることになっております。今回は観光セクターと一緒に取り上げられることになっているのですが、締約国会議の交渉に先立ちまして、農林水産分野、あるいは観光分野の閣僚級の会合が開かれることになっており、そこで閣僚宣言が出されるということで今準備が進んでいるところでございます。

現在、私ども農水省では、こういった要するに攻めの農林水産業とっておきまして、農林水産物にバリューチェーンをつけていって、農林水産業全体で目標を確実にしていこうといったようなことをやっています。今日は、ぜひ、生物多様性

そのものの価値の連鎖と申しますか、バリューチェーンといったことを連想しつつ、共有できていければと思っております。

このシンポジウム開催にあたりまして、企画段階から京都大学、東京大学、あるいは三菱UFJリサーチ&コンサルティング、環境省、当省の農林水産政策研究所には多大なご協力をいただきました。また、今回ご出席いただいていない方々にもいろいろご貢献をいただいていると思います。この場を借りてお礼を申し上げます。

今日のシンポジウムでございますけれども、ここに集まっていらっしゃった方はたぶん非常に関心が高い方だと思えますけれども、こういうことを農水省でやっているみたいだぞといったこともまわりの方々にも伝えていただいて、関心を高めていただければと思います。

6年ぐらい前に、生物多様性条約の第10回締約国会議が名古屋でございました。そのときは環境省の努力もあって、「生物多様性」という言葉がその年の流行語大賞の90番目ぐらいにランキングされたときもありましたが、それ以来、あまり使われなくなってきているかなという感がございますが、この際、またこういったことについていろんなところで議論していただくことがあれば幸いですと思っております。

簡単でございますけれども主催者としての挨拶にかえさせていただきます。今日はひとつよろしく願い申し上げます。